

生きる力 学びの、その先へ

⑤

令和3（2021）年度から、中学校では新しい学習指導要領による教育がはじまりました。

本通信は、昨年度まで、現2、3年生の保護者の皆様に発信しておりました。年度末・初めということもあり、しばらく間が空いてしまいましたが再開いたします。

さて、前号までは、新しい学習指導で求められる「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」についてお話ししました。本号は「深い学び」を進めるための重要なキーワードである「**各教科等の見方・考え方**」を働かせることについて解説します。



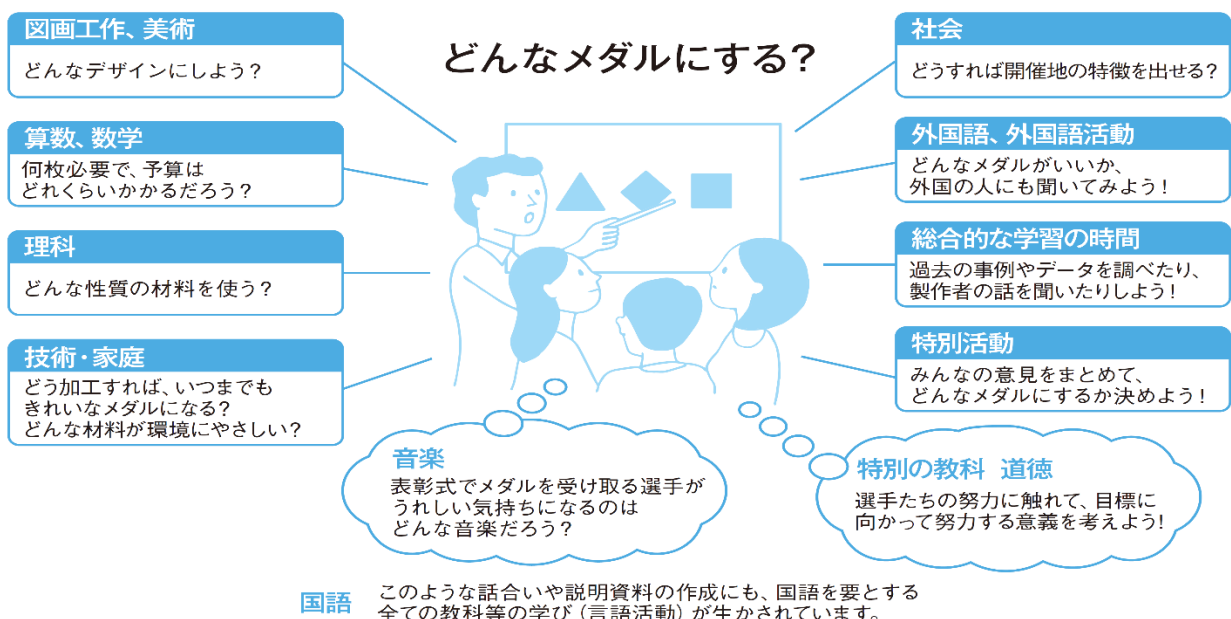
「見方・考え方」について

「深い学び」では、各教科などに特有の「**見方・考え方**」を働かせて問題を解決することが求められています。このように書くと何か特別なことがあるのかと思われるがちですが、そのようなことはありません。

例えば数学的な「見方・考え方」は、

「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。」と示されていますが、そもそも「数学で何を学ぶか」を端的に表すと「見方・考え方」になります。つまり「見方・考え方」に示されているのは、元々各教科にとっては「当たり前（本質的な意義）」のことなのです。では、なぜそれがわざわざ改めて整理されたのでしょうか。

例えば、社会生活の中でデータを見ながら考えたり、アイデアを言葉で表現したりするときに、学校教育で身に付けた「数学的な見方・考え方」や「国語科の言葉による見方・考え方」を活用することになります。つまり、「見方・考え方」は様々な場面で物事を解決する「道具」として活用され、教科の学習と社会をつなぐものといえます。このことは「何のためにそれぞれの教科の学習するのか」の答えにもつながります。文部科学省のリーフレットでは「オリパラのメダルをつくる」をテーマに、次のような例が掲載されています。



このように、それぞれの教科の「見方・考え方」を自在に働かせられるようにすることが私たち教師に求められているところです。

（参考）次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（H28.8 中教審教育課程部会）、文部科学省リーフレット「生きる力」

各教科の「見方・考え方」

教科等	「見方・考え方」
【国語】	「言葉による見方・考え方」 対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。
【社会】 (地理的分野)	「社会的事象の地理的な見方・考え方」 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。
(歴史的分野)	「社会的事象の歴史的な見方・考え方」 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差違などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること。
(公民的分野)	「現代社会の見方・考え方」 社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。
【数学】	「数学的な見方・考え方」 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。
【理科】	「理科の見方・考え方」 自然の事物・現象を質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。
【音楽】	「音楽的な見方・考え方」 音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。
【美術】	「造形的な見方・考え方」 美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

教科等	「見方・考え方」
【保健体育】	「体育の見方・考え方」 運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。 「保健の見方・考え方」 個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。
【技術・家庭】 (技術分野)	「技術の見方・考え方」 生活や社会における事象を、技術との関わり方の視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。
(家庭分野)	「生活の営みに係る見方・考え方」 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。
【外国語】	「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。
【特別の教科 道徳】	様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、人間としての生き方について考えること。 ※道徳科においては、「見方・考え方」と示されていないが、このような学習活動を行うことが他教科等の「見方・考え方」と同意と考えられる。
【総合的な学習の時間】	「探究的な見方・考え方」 各教科における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特徴に応じた見方・考え方のこと。
【特別活動】	「集団や社会の形成者としての見方・考え方」 各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること。